

# 米国/世界のエネルギー事情とこれから、 及び教育・就職・キャリアパス

主催：北海道大学大学院工学研究院 エネルギー環境システム部門  
共催：在札幌米国総領事館（協賛：米国エネルギー省、株式会社東芝）



講師： アラン・マイヤー博士  
ローレンス・バークレー国立研究所 上席研究員

ポール・コモール博士  
コロラド大学ボルダー校、再生可能・持続可能エネルギー研究所、エネルギー教育  
ディレクター

ヒノクマ リョウヘイ氏 ダイキン US コーポレーション リサーチ・エンジニア

日時： 2013年 5月 15日 水曜日 18:10～19:50

会場： 北海道大学 工学部 A棟 B11教室

マイヤー博士からは、今後、クリーンエネルギー技術を駆使して持続可能な成長を続けていくにはどうすればよいのか、米国や他の国々の事例から学び、「スマート都市プラン」についてのお話を聞きます。

コモール博士からは、再生可能エネルギーの使用を阻むものは何か、どう解決すればよいのかといった問題を含め、アル・ゴア氏と共に環境問題に取り組んだ経験から、エネルギー・環境分野の研究がいかに次世代に貢献できるか、米国でのエネルギー教育の現状やエネルギー分野でのキャリア・パスや職種、雇用についてもうかがいます。

ヒノクマ氏からは、米国にある日本企業で働く経験から、エネルギー分野で今後どのような日米協力が期待されるか、また自身の留学経験からエネルギー分野のキャリアパス、就職事情などお話いただきます。（言語：マイヤー氏、コモール氏は英日逐次通訳つき。ヒノクマ氏は日本語。）



**TOSHIBA**  
Leading Innovation >>>

## 講師略歴:

### アラン・マイヤー博士

アラン・マイヤー氏は、ローレンス・バークレー国立研究所 (LBNL)、エレクトロニクス・ライティング (照明) ・ネットワーク・グループの上席研究員を務めている

また、カリフォルニア大学デービス校のエネルギー効率センターでも教鞭をとっている。エネルギー効率の授業を担当し、大学院生のエネルギーや環境に関するプロジェクトの指導を行っている。

カリフォルニア大学バークレー校より博士号を取得。専門はエネルギーと資源。博士号取得以前に、化学および経済学の学位も取得している。早稲田大学に1年、パリの国際エネルギー機関 (IEA) に4年在籍した経験を持つ。

主要な研究テーマは、エネルギーを役に立つサービスに変換する方法、エネルギーをより効率的に利用する方法。

研究を通して、電化製品の待機電力が、世界の二酸化炭素排出量の1%にあたることを知り、あらゆる電化製品の待機電力を1ワット未満に減らすための国際的な計画を提案した。

その他には、家庭用電化製品による電力消費、電化製品のためのエネルギー・テストの手順、エネルギー効率を向上させるための国際政策などを研究。

最近では、電化製品のユーザー・インターフェースの改良、特にプログラム可能なサーモスタットや車両の研究、輸送分野では、低燃費タイヤ、電子機器や部品、鉄道の電化などの研究を行っている。



### ポール・コモール博士

コロラド大学ボルダー校

再生可能・持続可能エネルギー研究所 (RASEI)、エネルギー教育ディレクター

環境研究プログラム、講師

ポール・コモール氏は、コロラド大学ボルダー校の再生可能・持続可能エネルギー研究所 (RASEI) のエネルギー教育ディレクターであり、環境研究プログラムの講師も務めている。

RASEI の教育ディレクターとして、コロラド大学ボルダー校がエネルギー教育におけるリーダーとしての立場を確立できるように取り組んでいる。また、再生可能電力政策に関するアクティブ・リサーチ・プログラムの担当、学部生および大学院生向けのエネルギー技術および政策コースの担当でもある。



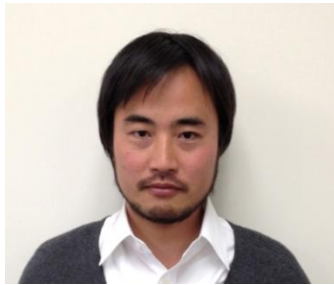
前職は、米国（連邦）議会技術評価局 (OTA) のプロジェクト・ディレクター。上下両院の委員会とエネルギー関連の法案を準備、評価する作業にたずさわる。コモール氏がまとめた 1992 年の報告書 “Building Energy Efficiency”（「エネルギー効率向上のために」）が、1992 年エネルギー政策法成立へとつながった。

コーネル大学より学士号 (BS)、スタンフォード大学より修士号、および博士号を取得。

執筆活動も精力的に行っている。2004 年には、米国と EU の再生可能エネルギー政策を比較した、“Renewable Energy Policy”（「再生可能エネルギー政策」）を出版。多くの大学で教材として採用されている。

「人為的な気候変動に関する知識を構築し、広め、必要な対策を講じるための基礎を築いた」ことが評価され、2007 年にアル・ゴア氏と気候変動に関する政府間パネル (IPCC) にノーベル平和賞が授与された。コモール氏は IPCC 第二次評価報告書の “Mitigation Options for Human Settlements”（「人間の住居と緩和のオプション」）の章の共同執筆者の一人であり、IPCC からノーベル平和賞への貢献者として認定されている。

## 檜前亮平



- 神奈川県立湘南高校卒業後、環境学を学ぶため渡米。
- 2004年にカリフォルニア大学デイビス校環境生物学及びマネージメント学部より学士号を取得。
- 2004年から2005年にかけて、サンフランシスコ市環境部に所属し、国連主催世界環境デー2005の開催準備に従事。
- 2008年にカリフォルニア大学デイビス校交通技術及び政策学部より修士号を獲得。研究テーマはガラパゴス諸島サンクリストバル島に設置された風力発電のデマンドレスポンス及び省エネによる効率利用。
- 卒業後、ジェトロ・ロサンゼルス支部 環境アドバイザーとして日本発のグリーンビルディング関連技術の米国における市場ポテンシャルに関するリサーチに従事。
- 現在、ダイキン US コーポレーション HVAC リサーチ・エンジニアとして、同社省エネ技術の実証試験、米省エネ及びスマートグリッド市場動向調査に従事。